

技術士フォーラム2013

「放射線による被ばくリスクと放射線防護をどう考えたらよいか？」 ー福島復興と、人々の尊厳を守るために、我々は何をすべきかを考えるー

放射線被ばくによるリスクを正しく理解するためにはどうしたらよいか？すなわち『放射線リスクの相場観』を得るために必要な情報提供を行い、参加者各々が自身の専門に照らしながら、自ら答えを出して頂くことを目標としたフォーラムを開催する。

本フォーラムでは、被災地の復興支援に携わった技術士からの要望に沿い、福島の現存被ばく状況を理解するために必要な、①放射線による身体影響、②従来の放射線防護の考え方と基準値の意味、③福島の汚染状況や住民への健康影響の3つの情報に絞り込む。また、福島における復旧支援活動を紹介し、事故後2年半を経て、解ってきた事実と説明が放置されてきた誤解の整理を試みる。さらに、福島の反省を踏まえた今後の放射線防護の考え方に議論を深化する。これらを通じて、福島復興の障害は何か？復旧・復興のあり方はどう考えるべきか？そして、『福島』の尊厳を守るために、我々は何をすべきか？を共に考える。

なお、議論の発散を避けるために原子力の是非を問う政策論は持ち込まない。また、主観に基づく「相場観」ではあるが、科学的根拠に基づく「安全」と主観的要素の混入する「安心」の混在はまずは切り離して考え、後にその統合を図ることとする。

日 時 : 平成25年11月25日(月) 13:00~17:00

場 所 : 機械振興会館 地下2階 ホール 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8

主 催 : 公益社団法人 日本技術士会 CPD実行委員会

会 費 : 正会員 (A) : 2,000円、準会員 (B) : 1,000円、
非会員 (C) : 4,000円、賛助会員 (D) : 2,000円

内 容

開会の辞 日本技術士会 副会長 鮫島 信行

講演1「福島原発事故と医療人；非常事態から現存被ばく状況における対応と社会的責務」

山下 俊一 氏(長崎大学理事・副学長、福島県立医科大学副学長)

講演2「放射線による身体影響の整理と基準値の算定方法、従来の放射線防護の考え方」

山口 一郎 氏 (国立保健医療科学院 生活環境研究部 首席主任研究官)

講演3「福島第一原子力発電所事故後の福島の状況を踏まえた、今後の放射線防護の考え方」

丹羽 太貫 氏 (福島県立医科大学特命教授、ICRP 主委員会委員、

京都大学名誉教授)

閉会の辞 CPD 実行委員会委員長 笹口裕昭

以上

※上記内容は変更となる場合がございますのでご了承ください。